



市町村のまちづくり

「かわ」と「まち」をつなぐ鬼怒川サイクリングロード

～ 地域資源を活用した「かわまちづくり」～

常総市アグリサイエンスバレー推進チーム 参事 穴原 一幸
常総市都市建設部都市計画課 主事 森 大輔

■概要

鬼怒川サイクリングロードは、平成27年関東・東北豪雨災害からの復旧事業として、国交省が進めている鬼怒川緊急対策プロジェクトで整備される堤防天端等を活用したサイクリングロードである。鬼怒川沿川7市町が参画する鬼怒川・小貝川かわまちづくり推進協議会において方向性を定め、平成31年に策定した「かわまちづくり」計画に基づき、堤防上に整備するサイクリングロードを有効活用し、鬼怒川・小貝川を軸とするサイクリングネットワークを形成していく計画である。今後は周辺地域から人々を呼び込み、水辺の賑わい拠点となり「かわ」と「まち」の魅力をつなぐリバースポットの整備とサイクリングロードを活用した「観光地域づくり」の取組が進む。



一部供用開始した鬼怒川サイクリングロード

■鬼怒川緊急対策プロジェクト

平成27年9月関東・東北豪雨により、鬼怒川の上流域において最多雨量を更新する降雨の影響で常総市三坂町の堤防が決壊し氾濫が発生。市全体の約1/3の面積に相当する約40km²が浸水するという大規模水害となった。水害からの復旧事業として、鬼怒川下流域（茨城県区間）において「水防災意識社会」の再構築を目指し、国、茨城県、常総市など7市町が主体となり、築堤などのハード整備対策に加え、タイムラインの整備など防災ソフト

対策が一体となった治水対策「鬼怒川緊急対策プロジェクト」（以下鬼怒プロ）が始まった。

■かわまちづくり

被災地域の振興に寄与するため、鬼怒川堤防天端をサイクリングロードとして活用するかわまちづくり事業が「鬼怒川緊急対策プロジェクト+1（プラスワン）」として進められている。この事業は、鬼怒プロにより整備される堤防天端や高水敷に整備される工事用道路を活用した「サイクリングロード（河川管理用通路兼用）」と堤防沿いに小規模公園のような休憩所「リバースポット」の整備を行うものである。良好な景観や安全な水辺へのアクセスを有する魅力あふれる川の拠点を「リバースポット」として位置づけ、「サイクリングロード」で結ぶことで広域的な周遊性の向上を図ることを目的としている。また、市内の観光資源を「タウンスポット」として位置付け、まちや沿川の歴史文化資源等の拠点とも共通の案内表示を用いることによって、「かわ」と「まち」のネットワーク化を図り、水辺の賑わいを創出するだけでなく、人が川から街へと流れる仕組みづくりも今後進めていく。



リバースポット整備イメージ

■官民連携によるサイクルフェスタ2019開催

令和元年9月に堤防が繋がったお祝いと鬼怒川サイクリングロードの部分供用開始のお披露目を兼ねたオープニングイベント「鬼怒川サイクルフェスタ2019」を河川管理者の国交省と共同で開催した。常総市区間の鬼怒



川と小貝川を結ぶ約40kmのスタンプラリーとして実施し、イベント全体の運営を常総市で行い、破堤地点付近の堤防上でのリスタートイベントを国交省で運営する形で連携して行った。また、地元建設業者によるサイクルスタンド寄贈や仮設トイレ設置、スポーツウェアメーカー等の民間企業によるイベント参加賞の提供や飲料メーカーによる無料給水所の設置、鉄道会社によるサイクルトレインに対応したイベント特別列車の運行などが行われ、さらには日本競輪選手会茨城支部の協力により、現役競輪選手が先導していただきイベントを盛り上げる事ができた。



サイクルフェスタ2019 破堤地点セレモニー

マや季節ごとの「地域サイクルツーリズム」を提案できると考えており、常総市では自転車地域観光資源を巡る「散走」スタイルをイメージしている。



常総市のランドマークタワー「豊田城」

■今後の展開

サイクルツーリズムは近年、「ビワイチ」「しまなみ海道」などの観光地で長距離を走るスタイルが注目されているが、我々の地域ではもう少し「ユルい」路線で提案しようと考えている。2023年3月に圏央道常総IC隣へ開業予定の「道の駅常総」を地域の玄関口として年間最大約100万人の来訪者を見込んでおり、自転車を活用した地域サイクルツーリズムは道の駅の来訪者を「地域へ回遊」させる仕組みづくりの先行プラクティスとしたいと考えている。これまで「観光」という概念に疎い地域がサイクリングをツールとすることで、地域資源を有機的に結ぶネットワークづくり、受け皿体制づくりの試行に役立てたい。また、鬼怒プロによる堤防整備は茨城県筑西市から守谷市まで約40km、両岸で約80kmの延長であり、従来からサイクリングに活用されている小貝川堤防を加えると100kmを越える延長になるが、堤防をサイクリングロードとするためには沿川自治体の賛同による整備が必要である。鬼怒川サイクリングロードは常総市区間においては令和3年度の全線開通を目指し「かわまちづくり」事業を進めているところであり、今後も情報発信を続け、沿川地域・自治体間で仲間を増やしながら、より魅力的なサイクリングロードとなるよう、様々な企業・団体と連携して新たな取り組みを行ってきたい。

<鬼怒川サイクリングロードの情報はこちら>



■自転車を活用したまちづくり

関東平野の平坦な地形や鬼怒川サイクリングロードを活かした「観光地域づくり」は常総市の観光スタイルの確立に活かせる可能性がある。鬼怒川は常総市のほぼ中央を南北に流れ、石下・水海道の中心市街地も鬼怒川沿いに面していることから、堤防にサイクリングロードが整備されることで市内広域の地域資源を結びつける新たな自転車幹線が出来ることになる。従来から堤防は学生の通学等に活用されていた区間もあることから、市民の利活用による利便性も考慮していく必要があり、これらの課題については今後「自転車活用推進計画」を策定する中で検討していく予定である。なお、従来からまちづくりの課題であった中心市街地活性化についても自転車を活用したアプローチも考えていきたい。

2019年11月にナショナルサイクルルートに指定された「つくば霞ヶ浦リンロード」が、隣接するつくば市を通っていることから、広域ネットワーク路線としての連携は有効と考えられるほか、鬼怒川と並行して路線を持つ関東鉄道常総線は「サイクルトレイン」の取組を実施しており、この異なるモビリティによる広域連携も有効と考えられる。自転車を活用することで様々なテ-